

「体験の風をおこそう」運動

# 国立青少年教育施設における傷病の概況

(令和5年度調査)

令和7年3月



# 目 次

## I. 調査の概要

1. 調査の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
2. 調査対象とした傷病の条件・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
3. 調査期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
4. 調査対象とした施設・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
5. 調査実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
6. 調査内容・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
7. 本書を読むに当たって・・・・・・・・ p 1

## II. 調査結果の概要

1. 調査結果のポイント・・・・・・・・ p 2
  - (1) 施設で発生した傷病の概況
  - (2) 負傷の概況
  - (3) 疾病の概況
  - (4) 負傷の発生件数・割合の推移（前回調査との比較）
2. 傷病の特徴と今後の安全対策・・・・・・・・ p 4
  - (1) 負傷の特徴と安全対策
  - (2) 疾病の特徴と安全対策

## III. 調査結果

1. 施設で発生した傷病の概況・・・・・・・・ p 6
  - (1) 施設で発生した傷病の件数
  - (2) 年齢期別にみた傷病の発生件数・割合
  - (3) 月別にみた傷病の発生件数・割合
  - (4) 利用期間別にみた発生件数・割合
  - (5) 時間別にみた発生件数・割合
  - (6) 活動内容別にみた発生件数・割合
  - (7) 場所別にみた発生件数・割合
  - (8) 天候別にみた発生件数・割合
  - (9) 病院受診、処置・静養後の対応別にみた傷病の発生件数・割合
2. 負傷の概況・・・・・・・・ p 12
  - (1) 負傷の状態
  - (2) 症状別にみた負傷の部位、程度、要因
  - (3) 状況別・症状別にみた負傷の発生件数
    - ① 年齢期別・性別・症状別にみた負傷の発生件数
    - ② 月別・症状別にみた負傷の発生件数
    - ③ 時間別・症状別にみた負傷の発生件数
    - ④ 活動内容別、場所別・症状別にみた負傷の発生件数
    - ⑤ 天候別・症状別にみた負傷の発生件数

- (4) 負傷した時の状況
  - ① 負傷の多かった活動（上位 5 つ）の事例
  - ② その他の活動で重傷だった事例

3. 疾病の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 25

- (1) 疾病の状態
- (2) 症状別にみた疾病の要因、発症時期、処置・静養後の対応
- (3) 状況別・症状別にみた疾病の発生件数
  - ① 年齢期別・性別・症状別にみた疾病の発生件数
  - ② 月別・症状別にみた疾病の発生件数
  - ③ 時間別・症状別にみた疾病の発生件数
  - ④ 活動内容別・場所別・症状別にみた疾病の発生件数
  - ⑤ 天候別・症状別にみた疾病の発生件数

**IV. 傷病の特徴と今後の安全対策**

1. 負傷の特徴と安全対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 34

- (1) 負傷の特徴
- (2) 今後の安全対策

2. 疾病の特徴と安全対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 35

- (1) 疾病の特徴
- (2) 今後の安全対策

**参考資料**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 36

- 傷病記録
- 普及啓発用チラシ

# I. 調査の概要

---

## 1. 調査の趣旨

本調査は、国立青少年教育施設で発生した傷病や事故の状況を把握し、その傾向や要因を検証することで、施設の安全管理の改善や安全対策の充実に資する基礎資料を得ることを目的としている。

## 2. 調査対象とした傷病の条件

研修期間中に発生した傷病もしくは活動等によって既往症が悪化した傷病のうち、以下のいずれかの状況に該当する傷病

- ・保健室や事務室で対応した傷病
- ・病院を受診した傷病（事務室を通さず、団体が直接病院に搬送した傷病も含む）
- ・活動現場等で施設職員が手当てした傷病

## 3. 調査期間

令和5年4月1日（土）～令和6年3月31日（日）

## 4. 調査対象とした施設

国立青少年教育振興機構が有する施設 27 施設（国立オリンピック記念青少年総合センターを除く）

## 5. 調査実施体制

（調査・普及）国立青少年教育振興機構教育事業部事業企画課

（集計・分析）国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター

## 6. 調査内容

- （1）傷病者の情報（氏名、性別、年齢）
- （2）傷病が発生した状況（日時、利用者数、天候、活動場所、活動内容、処置・静養後等）
- （3）けが（症状、部位、程度、けがをした時の状況）又は病気（症状、時期）
- （4）傷病の発生要因（本人、指導・引率者、装備等、環境）

## 7. 本書を読むに当たって

- ・複数の傷病が重複して発生した場合、最も当てはまる症状を一つ選んで回答しているため、副次的に発生した傷病は件数に含まれていない。

例：自転車で転倒し、手首を骨折、足を擦りむいた場合 → 骨折（手首）として集計

- ・重複回答や無回答によって回答が分からなかったものは「不明」として集計している。
- ・図表に示している回答比率（%）は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、その和が 100.0% と一致しない場合がある。

## II. 調査結果の概要

### 1. 調査結果のポイント

#### (1) 施設で発生した傷病の概況

- 令和5年度の国立青少年教育施設（国立オリンピック記念青少年センターを除く27施設）の利用者数は約167万人であり、そのうち傷病の発生件数は3104件（負傷927件、疾病2177件）で、前年度（1806件）に比べ、1298件（負傷186件、疾病1112件）増加<sup>\*</sup>した。[p6・表1-1]

※ 前年度より新型コロナウイルスの流行で減少した利用者が戻りつつあり、令和5年度も利用者数が増加傾向にあることから、傷病の発生件数の増加もその影響を受けていることに留意する必要がある。

- 傷病者の年齢期ごとに傷病の発生件数をみたところ、負傷、疾病ともに「小学生」（負傷407件、疾病1089件）が最も多く、傷病の発生件数のおよそ5割弱を占めていた。[p6・表1-2]

#### (2) 負傷の概況

- 負傷で多かった症状は「打撲」（175件）で、次いで「ねんざ」（144件）、「やけど」（138件）であった [p12・表2-1-1]。症状ごとに負傷した部位と負傷の要因をみると、それぞれ多かった部位や要因は表1-1のとおりである [p14・表2-2-1、p15・表2-2-3]。

表1-1. 負傷の症状別にみた負傷した部位と負傷の要因（上位3項目）

症 状	部 位	要 因
1. 「打撲」 (175件)	1. 「頭」(56件) 2. 「顔」(22件) 3. 「手・指」(19件)	1. 「不注意(本人)」(85件) 2. 「不慣れ(本人)」(40件) 3. 「注意不足(指導・引率者)」(36件)
2. 「ねんざ」 (144件)	1. 「足首」(114件) 2. 「膝」(10件) 3. 「手首」(7件)	1. 「不注意(本人)」(67件) 2. 「不慣れ(本人)」(48件) 3. 「失敗(本人)」(25件) 「不安定さ・滑りやすさ(環境)」(25件)
3. 「やけど」 (138件)	1. 「手・指」(101件) 2. 「前腕」(15件) 3. 「膝」「手首」(4件)	1. 「不注意(本人)」(82件) 2. 「不慣れ(本人)」(70件) 3. 「注意不足(指導・引率者)」(51件)

- 負傷の発生件数が多かった活動は「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」（140件）、次いで「野外炊事」（127件）、「自由時間」（87件）であった。[p9・表1-6]
- 活動毎に発生した負傷の症状をみると、スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）では「ねんざ」（40件）、「打撲」（32件）、「きり傷」（11件）、野外炊事では「やけど」（73件）、「きり傷」（23件）、「虫さされ」（15件）、自由時間では「打撲」（30件）、「きり傷」（11件）、「ねんざ」（7件）が多くなっていた。[p19・表2-3-4]

#### (3) 疾病の概況

- 疾病で多かった症状は「発熱」（1108件）で、次いで「頭痛」（249件）、「嘔吐」（167件）であった。なお、発熱のうち、「熱中症による」ものは89件であった。[p25・表3-1-1]
- 症状毎に発症した要因をみると、発熱では「疲労(本人)」(603件)、「病原体(ウイルス等)(環境)」(247件)、「気温(環境)」(175件)、頭痛では「疲労(本人)」(142件)、「気温(環境)」(81件)、「日差し(環境)」(57件)、嘔吐では「疲労(本人)」(84件)、「不安・心配・緊張(本人)」(39件)、「寝不足(本人)」と「気温(環境)」(28件)が多くなっていた。[p26・表3-2-1]

#### (4) 負傷の発生件数・割合の推移（前回調査との比較）

- ・症状別にみると（表 1-2）、前回調査に続き、「打撲」（18.9%）が高い割合を占めている。また、前回調査と比べると、「やけど」（14.9%）の占める割合が高くなり、順位が上がっている。
- ・活動内容別にみると（表 1-3）、前回調査に続き、「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」（15.1%）が高い割合を占めている。また、前回調査に比べ、「野外炊事」（13.7%）の占める割合が高くなり、「スポーツ活動」に次いで負傷の発生件数が多くなっている。
- ・活動場所別にみると（表 1-4）、前回調査に比べ、「体育館・プレイホール・講堂」（16.6%）の占める割合が最も高くなり、次いで「屋外運動コース」（16.3%）、「野外炊飯場」（14.5%）での負傷が上位を占めていた。

表 1-2. 症状別負傷発生件数・割合の推移（上位 10 項目）

令和4年度(前回調査)				令和5年度(今回調査)			
順位	症状	件	%	順位	症状	件	%
1	打撲	158	21.3	1	打撲	175	18.9
2	ねんざ	116	15.7	2	ねんざ	144	15.5
3	虫さされ	95	12.8	3	やけど	138	14.9
4	きり傷	80	10.8	4	虫さされ	107	11.5
5	やけど	76	10.3	5	きり傷	105	11.3
6	すり傷	72	9.7	6	すり傷	71	7.7
7	骨折	25	3.4	7	骨折	33	3.6
7	さし傷	25	3.4	8	突き指	17	1.8
9	突き指	13	1.8	9	さし傷	16	1.7
10	鼻血	12	1.6	9	鼻血	16	1.7

表 1-3. 活動内容別負傷発生件数・割合の推移（上位 10 項目）

令和4年度(前回調査)				令和5年度(今回調査)			
順位	活動	件	%	順位	活動	件	%
1	スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)	101	13.6	1	スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)	140	15.1
2	オリエンテーリング・ウォークラリー	81	10.9	2	野外炊事	127	13.7
3	自由時間	75	10.1	3	自由時間	87	9.4
4	野外炊事	58	7.8	4	創作活動(クラフト等)	68	7.3
5	登山・ハイキング	55	7.4	5	登山・ハイキング	66	7.1
6	創作活動(クラフト等)	48	6.5	6	オリエンテーリング・ウォークラリー	57	6.1
7	移動中	43	5.8	7	移動中	38	4.1
8	研修・学習活動	27	3.6	8	就寝時間(起床時も含む)	37	4
9	アドベンチャープログラム・インジティブゲーム	25	3.4	9	研修・学習活動	34	3.7
10	カッター・カヌー・ボート・ヨット	24	3.2	10	キャンプファイヤー・キャンドルセレモニー	33	3.6
10	就寝時間(起床時も含む)	24	3.2				

表 1-4. 活動場所別負傷発生件数・割合の推移（上位 10 項目）

令和4年度(前回調査)

順位	場所	件	%
1	屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)	166	22.4
2	体育館・プレイホール・講堂	105	14.2
3	グラウンド・広場・コート等	100	13.5
4	宿泊室	81	10.9
5	野外炊飯場	58	7.8
6	研修室・オリエンテーション室	51	6.9
7	海洋施設	41	5.5
8	通路・階段	34	4.6
9	敷地外の活動場所(バス等の移動も含む)	30	4.0
10	浴室	19	2.6

令和5年度(今回調査)

順位	場所	件	%
1	体育館・プレイホール・講堂	154	16.6
2	屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)	151	16.3
3	野外炊飯場	134	14.5
4	グラウンド・広場・コート等	111	12.0
5	宿泊室	98	10.6
6	研修室・オリエンテーション室	61	6.6
7	海洋施設	49	5.3
8	通路・階段	44	4.7
9	敷地外の活動場所(バス等の移動も含む)	38	4.1
10	浴室	22	2.4



## 2. 傷病の特徴と今後の安全対策

### (1) 負傷の特徴と安全対策

#### <負傷の特徴>

- 負傷した状況を見ると、「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」では接触プレーによる「骨折」や「靭帯損傷・断裂」、「打撲」、「野外炊事」では包丁や鉋による手の「きり傷」や熱い鍋を触っての「やけど」、「自由時間」では移動中の転倒や階段の踏み外し等による「骨折」や「きり傷」、「打撲」といった負傷が目立っている。
- 負傷が発生した時間をみると、活動（午前）・活動（午後）ともに後半の時間帯になるにつれ、負傷の割合が高くなる傾向がみられる。
- 負傷の要因をみると、「不注意」、「不慣れ」、「失敗」といった本人の要因が 6 割弱、「注意不足」や「指導不足」といった指導・引率者の要因が 2 割弱、「虫・動植物」、「不安定さ・滑りやすさ」といった環境要因が 1 割強を占めている。

#### <今後の安全対策>

- 指導者は、参加者に対し、入所時や活動前の安全指導（施設ではどのような事故やけがが起きやすいのか、それらはどうすれば防げるのかなど）を徹底し、安全意識（自分の身は自分で守る、他の人の安全にも気を配る等）の向上に努めるようにする。
- 指導者は、活動前だけでなく、活動中も事故やけがの予兆を見逃さないよう危険（リスク）の発見、把握に努めるようにする。特に、活動が後半になるにつれ、負傷する割合が高くなる傾向がみられることから、状況に応じて適切な安全指導や安全対策を行うようにする。
- 施設では、事前打ち合わせの際に、安全意識啓発チラシを活用しながら施設で起きやすい事故やけがとその安全対策について丁寧に説明し、利用団体の指導者・引率者が適切な安全管理や安全指導を行えるよう支援する。

## (2) 疾病の特徴と安全対策

### <疾病の特徴>

- 発症した症状をみると、「発熱」、「頭痛」、「嘔吐」、「吐き気」、「倦怠感（だるさ）」が上位を占めており、いずれの症状も「疲労」が主な要因として挙げられている。その他、発熱や頭痛では「気温」、嘔吐では「不安・心配・緊張」といった要因も挙げられていた。
- 疾病の申し出があった時間をみると、他の時間帯に比べ、起床・朝食等や活動（午前）の時間帯の割合が高い傾向がみられる。
- 発症した後の対応をみると、疾病を申し出た者の約5割は帰宅している。

### <今後の安全対策>

- 施設での生活は、普段の生活とは異なるため、慣れない環境による不安や緊張で寝不足になることもある。計画段階では、利用者の年齢や体力に合わせた無理のない活動計画を立てるようにする。
- 利用期間中は、朝の時間帯を中心に定期的に健康チェックを行い、疲れている様子がみられる利用者には適宜休憩を取らせ、体調を崩さないように配慮するなど、利用者の疲れ具合や体調に合わせた柔軟なプログラム運営を心がけるようにする。

### Ⅲ. 調査結果

#### 1. 施設で発生した傷病の概況

##### (1) 施設で発生した傷病の件数

令和5年度の国立青少年教育施設（以下、「施設」という。）の利用者数は約167万人（国立オリンピック記念青少年センターを除く）であった。令和4年度は新型コロナの流行で減少した利用者数が戻りつつあり、令和5年度も回復傾向にあることから、利用者数は約30万人増となった。

施設で発生した傷病の件数（表1-1）は3104件（男性1660件、女性1444件）で、そのうち、研修支援<sup>※1</sup>が2864件（男性1541件、女性1323件）、教育事業<sup>※2</sup>が114件（男性54件、女性60件）であった。傷病の件数の内訳をみると、負傷が927件（男性535件、女性392件）、疾病が2177件（男性1125件、女性1052件）となっており、前年度（負傷741件、疾病1065件）に比べ、負傷が186件、疾病が1112件増加した。ただし、令和5年度は、前年度に比べ、利用者数も増加していることから、傷病の発生件数の増加もその影響を受けていることに留意する必要がある。

表1-1. 負傷・疾病別・事業種別傷病の発生件数 (件)

事業別	負 傷			疾 病			計		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女
研修支援	841	488	353	2023	1053	970	2864	1541	1323
教育事業	51	26	25	63	28	35	114	54	60
不 明	35	21	14	91	44	47	126	65	61
計	927	535	392	2177	1125	1052	3104	1660	1444

※1 研修支援：学校や青少年団体、青少年教育関係者等の研修目的達成に向けて、広く学習の場や機会を提供し、より効果的なプログラムの提案や教育的指導、助言等を行うこと。

※2 教育事業：青少年の課題や国の政策課題に対応しつつ、立地条件及び地域特性やニーズに対応した、青少年の体験活動事業や青少年教育指導者等の養成研修事業を行うこと。

##### (2) 年齢期別にみた傷病の発生件数・割合

傷病者の年齢期ごとに傷病の発生件数をみたところ（表1-2）、負傷、疾病ともに「小学生」（負傷407件、疾病1089件）が最も多く、傷病の発生件数の5割弱を占めている。

表1-2. 年齢期別傷病発生件数・割合

年齢期	負 傷		疾 病		計	
	件	%	件	%	件	%
幼児	25	2.7	76	3.5	101	3.3
小学生	407	43.9	1089	50.0	1496	48.2
中学生	245	26.4	495	22.7	740	23.8
高校生	101	10.9	228	10.5	329	10.6
大学生等	80	8.6	191	8.8	271	8.7
社会人	63	6.8	93	4.3	156	5.0
その他	6	0.6	5	0.2	11	0.4
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	927	100.0	2177	100.0	3104	100.0

### (3) 月別にみた傷病の発生件数・割合

月ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-3）、負傷では「5月」（155件）が最も多く、次いで「8月」（140件）、「6月」（132件）となっており、施設で発生した負傷の4割強を占めていた。一方、疾病をみると、「8月」（369件）が最も多く、次いで「7月」（317件）、「9月」（273件）となっており、施設で発生した疾病のおよそ4割強を占めていた。

表 1-3. 月別傷病発生件数・割合

月	負傷		疾病		計		
	件	%	件	%	件	%	
春・夏	4月	56	6.0	154	7.1	210	6.8
	5月	155	16.7	179	8.2	334	10.8
	6月	132	14.2	199	9.1	331	10.7
	7月	122	13.2	317	14.6	439	14.1
	8月	140	15.1	369	16.9	509	16.4
	9月	99	10.7	273	12.5	372	12.0
秋・冬	10月	91	9.8	229	10.5	320	10.3
	11月	29	3.1	136	6.2	165	5.3
	12月	18	1.9	94	4.3	112	3.6
	1月	18	1.9	56	2.6	74	2.4
	2月	37	4.0	78	3.6	115	3.7
	3月	30	3.2	93	4.3	123	4.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
計	927	100.0	2177	100.0	3104	100.0	

### (4) 利用期間別にみた傷病の発生件数・割合

利用期間ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-4-1）、負傷、疾病ともに「1泊2日」（負傷 460件、疾病 973件）が最も多く、次いで「2泊3日」（負傷 259件、疾病 625件）が多くなっている。

泊数別に傷病の発生日をみたところ（表 1-4-2、表 1-4-3）、負傷・疾病ともに、1泊2日では「1日目」（負傷 313件、疾病 577件）、2泊3日では「2日目」（負傷 145件、疾病 302件）、3泊4日では「3日目」（負傷 26件、疾病 45件）、4泊5日では「4日目」（負傷 28件、疾病 114件）と最終日の前日に傷病の発生が多くなる傾向がみられた。

表 1-4-1. 利用期間別傷病発生件数・割合

利用期間	負傷		疾病		計		
	件	%	件	%	件	%	
日帰り	39	4.2	54	2.5	93	3.0	
宿泊	1泊2日	460	49.6	973	44.7	1433	46.2
	2泊3日	259	27.9	625	28.7	884	28.5
	3泊4日	57	6.1	121	5.6	178	5.7
	4泊5日	78	8.4	315	14.5	393	12.7
	5泊6日	11	1.2	20	0.9	31	1.0
	6泊7日	4	0.4	29	1.3	33	1.1
	7泊8日以上	19	2.0	40	1.8	59	1.9
	不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	927	100.0	2177	100.0	3104	100.1	

表 1-4-2. 泊数別・発生日別負傷発生件数・割合

発生日	1泊2日		2泊3日		3泊4日		4泊5日	
	件	%	件	%	件	%	件	%
1日目	313	68.0	75	29.0	7	12.3	8	10.3
2日目	146	31.7	145	56.0	18	31.6	23	29.5
3日目			39	15.1	26	45.6	17	21.8
4日目					6	10.5	28	35.9
5日目							2	2.6
	459	99.7	259	100.1	57	100.0	78	100.0

表 1-4-3. 泊数別・発生日別疾病発生件数・割合

発生日	1泊2日		2泊3日		3泊4日		4泊5日	
	件	%	件	%	件	%	件	%
1日目	577	59.3	188	30.1	20	16.5	30	9.5
2日目	393	40.4	302	48.3	43	35.5	60	19.0
3日目			135	21.6	45	37.2	80	25.4
4日目					13	10.7	114	36.2
5日目							31	9.8
	970	100.0	625	100.0	121	99.9	315	100.0

(5) 時間別にみた傷病の発生件数・割合

時間ごとに傷病の発生件数をみたところ(表 1-5)、負傷では「11時」(124件)が最も多く、次いで「15時」(105件)、「14時」(86件)となっている。一方、疾病では「8時」(165件)が最も多くなっており、次いで「7時」(163件)、「12時」(155件)となっている。

表 1-5. 時間別傷病発生件数・割合

時間		負傷		疾病		計	
		件	%	件	%	件	%
起床・朝食等	6時	11	1.2	92	4.2	103	3.3
	7時	12	1.3	163	7.5	175	5.6
	8時	12	1.3	165	7.6	177	5.7
活動(午前)	9時	31	3.3	147	6.8	178	5.7
	10時	79	8.5	135	6.2	214	6.9
	11時	124	13.4	144	6.6	268	8.6
昼食	12時	63	6.8	155	7.1	218	7.0
活動(午後)	13時	69	7.4	140	6.4	209	6.7
	14時	86	9.3	116	5.3	202	6.5
	15時	105	11.3	118	5.4	223	7.2
	16時	89	9.6	115	5.3	204	6.6
夕食・入浴等	17時	54	5.8	104	4.8	158	5.1
	18時	28	3.0	128	5.9	156	5.0
活動(夜)	19時	59	6.4	120	5.5	179	5.8
	20時	49	5.3	96	4.4	145	4.7
	21時	31	3.3	91	4.2	122	3.9
	22時	11	1.2	67	3.1	78	2.5
就寝	23~5時	14	1.5	61	2.8	75	2.4
不明		0	0.0	20	0.9	20	0.6
計		927	100.0	2177	100.0	3104	100.0

※上記(左)の時間帯は施設の標準的な生活時間帯を示している。

(6) 活動内容別にみた傷病の発生件数・割合

活動内容ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-6）、負傷では「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」（140 件）が最も多く、次いで「野外炊事」（127 件）、「自由時間」（87 件）となっている。一方、疾病では「自由時間」（319 件）が最も多く、次いで「研修・学習活動」（278 件）、「就寝時間（起床時間も含む）」（239 件）と続いている。

表 1-6. 活動内容別傷病発生件数・割合

活動		負傷		疾病		計	
		件	%	件	%	件	%
陸上活動	登山・ハイキング	66	7.1	97	4.5	163	5.3
	オリエンテーリング・ウォークラリー	57	6.1	135	6.2	192	6.2
	クロスカンントリー	2	0.2	16	0.7	18	0.6
	サイクリング・マウンテンバイク	9	1.0	6	0.3	15	0.5
	アドベンチャープログラム・イニシアティブゲーム	29	3.1	33	1.5	62	2.0
	クライミング・ボルダリング	2	0.2	0	0.0	2	0.1
	スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）	140	15.1	175	8.0	315	10.1
水辺活動	カッター・カヌー・ボート・ヨット	20	2.2	59	2.7	79	2.5
	シュノーケリング・スキndaイビング	3	0.3	3	0.1	6	0.2
	海水浴・磯遊び・釣り	31	3.3	16	0.7	47	1.5
	沢登り・川遊び	9	1.0	9	0.4	18	0.6
雪上活動	スキー・スノーボード	19	2.0	14	0.6	33	1.1
	クロスカントリースキー	0	0.0	1	0.0	1	0.0
	雪上活動（雪遊び、スノーシュー等）	7	0.8	9	0.4	16	0.5
野外生活	野外炊事	127	13.7	136	6.2	263	8.5
	キャンプ（テント設営等）	0	0.0	5	0.2	5	0.2
	キャンプファイヤー・キャンドルセレモニー	33	3.6	58	2.7	91	2.9
	創作活動（クラフト等）	68	7.3	56	2.6	124	4.0
	自然観察	7	0.8	20	0.9	27	0.9
研修	研修・学習活動	34	3.7	278	12.8	312	10.1
	奉仕活動	1	0.1	2	0.1	3	0.1
生活	自由時間	87	9.4	319	14.7	406	13.1
	つどい（朝・夕）	3	0.3	42	1.9	45	1.4
	清掃	7	0.8	34	1.6	41	1.3
	食事	12	1.3	200	9.2	212	6.8
	入浴	23	2.5	11	0.5	34	1.1
	就寝時間（起床時も含む）	37	4.0	239	11.0	276	8.9
	移動中	38	4.1	51	2.3	89	2.9
その他	入所前	0	0.0	9	0.4	9	0.3
	その他	54	5.8	135	6.2	189	6.1
不明		2	0.2	9	0.4	11	0.4
計		927	100.0	2177	100.0	3104	100.0

### (7) 場所別にみた傷病の発生件数・割合

場所ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-7）、負傷では「体育館・プレイホール・講堂」（154 件）が最も多く、次いで「屋外運動コース（登山、OL、サイクリング等）」（151 件）、「野外炊飯場」（134 件）となっている。一方、疾病では「宿泊室」（601 件）が最も多く、次いで「体育館・プレイホール・講堂」（292 件）、「研修室・オリエンテーション室」（268 件）となっている。

表 1-7. 場所別傷病発生件数・割合

場所		負傷		疾病		計	
		件	%	件	%	件	%
生活 エリア	宿泊室	98	10.6	601	27.6	699	22.5
	通路・階段	44	4.7	38	1.7	82	2.6
	食堂	9	1.0	166	7.6	175	5.6
	浴室	22	2.4	10	0.5	32	1.0
活動 エリア	研修室・オリエンテーション室	61	6.6	268	12.3	329	10.6
	体育館・プレイホール・講堂	154	16.6	292	13.4	446	14.4
	武道場	6	0.6	8	0.4	14	0.5
	クライミングウォール	3	0.3	0	0.0	3	0.1
	工作室・調理室等	14	1.5	13	0.6	27	0.9
	野外炊飯場	134	14.5	135	6.2	269	8.7
	テントサイト	7	0.8	16	0.7	23	0.7
	グラウンド・広場・コート等	111	12.0	170	7.8	281	9.1
	屋外運動コース（登山、OL、サイクリング等）	151	16.3	241	11.1	392	12.6
	ロープスコース※	5	0.5	3	0.1	8	0.3
海洋施設	49	5.3	61	2.8	110	3.5	
その他	敷地外の活動場所（バス等の移動も含む）	38	4.1	113	5.2	151	4.9
	その他	20	2.2	36	1.7	56	1.8
不明		1	0.1	6	0.3	7	0.2
計		927	100.0	2177	100.0	3104	100.0

※アドベンチャープログラムで使用する活動場所

### (8) 天候別にみた傷病の発生件数・割合

天候ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-8）、負傷、疾病ともに「晴」（負傷 564 件、疾病 1433 件）が最も多く、次いで「曇」（負傷 221 件、疾病 401 件）、「雨」（負傷 133 件、疾病 279 件）となっている。

表 1-8. 天候別傷病発生件数・割合

天候	負傷		疾病		計	
	件	%	件	%	件	%
晴	564	60.8	1433	65.8	1997	64.3
曇	221	23.8	401	18.4	622	20.0
雨	133	14.3	279	12.8	412	13.3
雪	9	1.0	63	2.9	72	2.3
不明	0	0.0	1	0.0	1	0.0
計	927	100.0	2177	100.0	3104	99.9

(9) 病院受診、処置・静養後の対応別にみた傷病の発生件数・割合

病院受診の有無別に傷病の発生件数をみたところ（表 1-9-1）、負傷では「無」（635 件）が多く、次いで「日帰り」（286 件）、「入院」（4 件）となっており、病院を受診（日帰り、入院）した割合は 3 割強となっている。一方、疾病でも「無」（1820 件）が多く、次いで「日帰り」（337 件）、「入院」（8 件）となっており、病院の受診（日帰り、入院）は 1 割半程度となっている。

傷病の処置・静養後の対応別に傷病の発生件数をみたところ（表 1-9-2）、負傷では「活動継続」が 812 件、「帰宅」が 113 件と 9 割弱が活動を継続しているのに対し、疾病では「活動継続」が 1026 件、「帰宅」が 1125 件とおおよそ 5 割が帰宅している状況であった。

表 1-9-1. 病院受診別傷病発生件数・割合

病院の受診	負傷		疾病		計	
	件	%	件	%	件	%
無	635	68.5	1820	83.6	2455	79.1
日帰り	286	30.9	337	15.5	623	20.1
入院	4	0.4	8	0.4	12	0.4
不明	2	0.2	12	0.6	14	0.5
計	927	100.0	2177	100.0	3104	100.0

表 1-9-2. 処置・静養後の対応別傷病発生件数・割合

処置・静養後	負傷		疾病		計	
	件	%	件	%	件	%
活動継続	812	87.6	1026	47.1	1838	59.2
帰宅	113	12.2	1125	51.7	1238	39.9
不明	2	0.2	26	1.2	28	0.9
計	927	100.0	2177	100.0	3104	100.0

## 2. 負傷の概況

### (1) 負傷の状態

負傷の症状をみると(表 2-1-1)、「打撲」(175 件)が最も多く、次いで「ねんざ」(144 件)、「やけど」(138 件)となっている。次に多かった「虫さされ」の種類をみると(表 2-1-2)、「アブ・ブヨ」(38 件)が最も多く 3 割半を占め、次いで「ハチ」(22 件)、「ダニ」(13 件)となっている。

負傷した部位をみると(表 2-1-3)、「手・指」(245 件)が最も多く、次いで「足首」(151 件)、「顔」(82 件)となっている。各部位の区分でみると、「下肢部」(354 件)や「上肢部」(349 件)がそれぞれ 4 割弱を占めており、「頭部」(196 件)が 2 割強となっている。

表 2-1-1. 症状別負傷発生件数・割合

症状	件	%
きり傷	105	11.3
さし傷	16	1.7
すり傷	71	7.7
やけど	138	14.9
日焼け	2	0.2
凍傷	1	0.1
打撲	175	18.9
突き指	17	1.8
ねんざ	144	15.5
靭帯損傷・断裂	9	1.0
脱臼	5	0.5
骨折	33	3.6
鼻血	16	1.7
歯の破折	5	0.5
眼のけが	11	1.2
虫さされ	107	11.5
かぶれ	6	0.6
気道閉塞・誤嚥	0	0.0
溺水	1	0.1
その他	65	7.0
計	927	100.0

<その他>

肉離れ、爪はがれ、靴擦れ、とげ等

表 2-1-3. 部位別負傷発生件数・割合

部位	件	%	%	
頭部	頭	78	8.4	21.1
	顔	82	8.8	
	眼	27	2.9	
	首	9	1.0	
上肢部	肩	12	1.3	37.6
	上腕	12	1.3	
	肘	25	2.7	
	前腕	27	2.9	
	手首	28	3.0	
	手・指	245	26.4	
体幹部	胸	2	0.2	2.4
	腹	1	0.1	
	背中	9	1.0	
	腰	10	1.1	
下肢部	尻	5	0.5	38.1
	大腿	29	3.1	
	膝	61	6.6	
	下腿	42	4.5	
	足首	151	16.3	
	足・指	66	7.1	
全身	2	0.2	0.2	
不明	4	0.4	0.4	
計	927	100.0		

表 2-1-2. 「虫さされ」の種類

種類	件	%
アブ・ブヨ	38	35.5
ハチ	22	20.6
ダニ	13	12.1
毛虫	6	5.6
ムカデ	3	2.8
クラゲ	9	8.4
その他	16	15.0
不明	0	0.0
計	107	100.0

表 2-1-4. 程度別負傷発生件数・割合

程度	件	%
軽微(その場で手当でできる軽いけが)	637	68.7
軽傷(医師による1か月未満の治療を要するけが)	231	24.9
重傷(医師による1か月以上の治療を要するけが)	38	4.1
致命傷(死亡・後遺症が残る重篤なけが)	0	0.0
不明	21	2.3
計	927	100.0

負傷の程度をみると（表 2-1-4）、「軽微（その場で手当てできる軽いけが）」（637 件）が最も多く、発生した負傷のおよそ 7 割弱は軽微な負傷となっている。

負傷の要因（複数回答）をみると（表 2-1-5）、「不注意（本人）」（402 件）が最も多く、次いで「不慣れ（本人）」（259 件）、「注意不足（指導者）」（190 件）となっている。各要因の区分でみると、本人に係る要因（981 件）が 57.6%と半数以上を占めており、次いで、指導・引率者に係る要因（325 件）が 19.1%、環境に係る要因（220 件）が 12.9%、装備に係る要因（85 件）が 5.0%となっていた。

表 2-1-5. 要因別負傷発生件数・割合 (複数回答)

要因		件	%	%
本人	失敗	139	15.0	57.6
	不注意	402	43.4	
	不慣れ	259	27.9	
	不適切な行動	43	4.6	
	寝不足	5	0.5	
	疲労	65	7.0	
	不安・心配・緊張	12	1.3	
	体力不足	15	1.6	
	人間関係(けんか、ふざけ等)	19	2.0	
	既往症	15	1.6	
	アレルギー	7	0.8	
指導・引率者	指導不足	64	6.9	19.1
	注意不足	190	20.5	
	経験不足	29	3.1	
	人数不足	21	2.3	
	連携不足	4	0.4	
	準備不足	17	1.8	
装備	不適切な服装	38	4.1	5.0
	装備不備	24	2.6	
	装備不良(破損・劣化)	9	1.0	
	施設・設備の故障・不具合	14	1.5	
環境	荒天(強風、雷、吹雪等)	5	0.5	12.9
	気温	11	1.2	
	日差し	9	1.0	
	高度(標高)	0	0.0	
	水深	0	0.0	
	雪	6	0.6	
	落石・落木	2	0.2	
	不安定さ・滑りやすさ	80	8.6	
	虫・動物	98	10.6	
	植物	5	0.5	
	病原体(ウイルス等)	4	0.4	
その他	73	7.9	4.3	
不明	18	1.9	1.1	
回答者数		927		↑

※上記の数値は回答数(N=1702)を基に割合を算出

(2) 症状別にみた負傷の部位、程度、要因

症状ごとに負傷した部位をみると(表2-2-1)、打撲では「頭」(56件)や「顔」(22件)などの負傷が多く、ねんざでは「足首」(114件)や「膝」(10件)、やけどでは「手・指」(101件)や「前腕」(15件)、といった部位の負傷が多くなっている。

次に、症状ごとに負傷の程度をみると(表2-2-2)、ほとんどの症状では「軽微」が多くなっているが、骨折や靭帯損傷・断裂では「軽症」や「重傷」の件数のほうが多くなっている。

表2-2-1. 症状別・部位別負傷発生件数

(件)

部位		きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
頭部	頭	15	0	2	1	0	0	56	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	78
	顔	17	0	9	1	1	0	22	0	0	0	0	1	15	5	0	8	2	0	0	1	82
	眼	2	0	3	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	11	1	0	0	0	5	27
	首	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	0	9
上肢部	肩	0	0	1	1	0	0	3	0	1	0	2	2	0	0	0	1	0	0	0	1	12
	上腕	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	5	1	0	0	1	12
	肘	2	0	9	1	0	0	8	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	25
	前腕	0	0	0	15	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	0	5	0	0	0	2	27
	手首	1	0	1	4	0	0	2	0	7	1	0	9	0	0	0	2	0	0	0	1	28
	手・指	48	10	16	101	0	0	19	16	3	0	1	4	0	0	0	17	0	0	0	10	245
体幹部	胸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	腹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	背中	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	9
	腰	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	10
下肢部	尻	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	大腿	1	0	1	2	0	0	5	0	1	0	0	1	0	0	0	13	0	0	0	5	29
	膝	6	0	15	4	0	0	14	0	10	2	1	0	0	0	0	3	0	0	0	6	61
	下腿	4	0	5	1	1	0	6	0	1	1	0	0	0	0	0	17	1	0	0	5	42
	足首	4	0	1	0	0	0	4	0	114	5	0	4	0	0	0	14	0	0	0	5	151
	足・指	4	6	6	3	0	1	15	1	5	0	0	5	0	0	0	6	0	0	0	14	66
全身	全身	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	1	4
計		105	16	71	138	2	1	175	17	144	9	5	33	16	5	11	107	6	0	1	65	927

表2-2-2. 症状別・程度別負傷発生件数

(件)

程度	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
軽微	54	11	63	120	1	1	128	13	110	1	2	0	14	0	6	70	4	0	1	38	637
軽傷	41	4	7	17	1	0	41	4	32	4	3	10	2	2	5	34	2	0	0	22	231
重傷	7	0	0	0	0	0	1	0	1	3	0	22	0	1	0	0	0	0	0	3	38
致命傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	3	1	1	1	0	0	5	0	1	1	0	1	0	2	0	3	0	0	0	2	21
計	105	16	71	138	2	1	175	17	144	9	5	33	16	5	11	107	6	0	1	65	927

症状ごとに負傷の要因（複数回答）をみると（表 2-2-3）、打撲やねんざ、やけどのいずれも、「不注意（本人）」（打撲 85 件、ねんざ 67 件、やけど 82 件、）や「不慣れ（本人）」（打撲 40 件、ねんざ 48 件、やけど 70 件）による負傷が多くなっている。

表 2-2-3. 症状別・要因別負傷発生件数

(複数回答:件)

要因		きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他
本人	失敗	13	2	15	21	1	1	32	7	25	1	1	6	2	1	4	1	0	0	0	6
	不注意	65	9	31	82	0	0	85	7	67	5	1	15	4	1	4	9	1	0	0	16
	不慣れ	37	6	20	70	1	0	40	3	48	1	3	8	0	1	1	7	0	0	1	12
	不適切な行動	5	0	2	6	0	0	11	1	5	1	1	6	0	0	0	2	1	0	0	2
	寝不足	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	疲労	3	0	3	2	0	0	9	0	21	2	0	4	1	0	0	1	0	0	1	18
	不安・心配・緊張	0	0	1	0	0	0	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	体力不足	1	0	1	0	0	0	3	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
	人間関係	5	0	3	0	0	0	7	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	0	0	0
	既往症	0	0	1	0	0	0	2	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	8
	アレルギー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	4	0	0
指導・引率者	指導不足	10	1	7	18	0	0	17	1	4	1	0	2	0	0	1	0	0	0	0	2
	注意不足	30	4	16	51	1	0	36	3	20	2	1	6	1	1	1	7	1	0	1	8
	経験不足	6	2	1	7	0	0	5	1	4	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	人数不足	4	1	0	3	0	0	5	0	2	0	0	1	2	0	1	1	0	0	1	0
	連携不足	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	準備不足	4	0	1	2	0	0	2	0	4	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
装備	不適切な服装	4	0	3	3	0	0	4	0	4	0	0	2	0	0	0	18	0	0	0	0
	装備不備	1	2	2	11	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0
	装備不良	4	2	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	施設・設備の故障・不具合	4	0	0	1	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	4
環境	荒天	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	気温	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	3	0	0	1	1	0	0	1
	日差し	0	0	1	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
	高度(標高)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	水深	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	雪	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	落石・落木	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不安定さ・滑りやすさ	5	3	11	0	0	0	23	0	25	1	1	6	0	0	0	2	0	0	0	3
	虫・動物	0	2	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	90	0	0	0	1
	植物	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0
病原体(ウイルス等)	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	
その他	9	2	5	4	0	0	12	1	9	1	0	3	6	2	2	6	0	0	0	11	
不明	0	2	1	3	0	0	7	0	1	0	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	
回答者数(N=927)	105	16	71	138	2	1	175	17	144	9	5	33	16	5	11	107	6	0	1	65	

(3) 状況別・症状別にみた負傷の発生件数

① 年齢期別・性別・症状別にみた負傷の発生件数

負傷者の年齢期ごとに発生した負傷の症状をみたところ(表2-3-1)、小学生は「やけど」(84件)、「打撲」(84件)、「きり傷」(52件)、中学生は「ねんざ」(54件)、「打撲」(48件)、「虫さされ」(29件)による負傷が多くなっている。

男女で負傷の症状を比較すると、男性は「打撲」(100件)や「やけど」(86件)、「きり傷」(68件)、「すり傷」(42件)、「骨折」(25件)による負傷が多く、女性は「ねんざ」(77件)による負傷が多くなっている。

表2-3-1. 年齢期・性別・症状別負傷発生件数

(件)

性別	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計	
幼児	全体	7	0	6	3	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	25	
	男	4	0	6	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	16	
	女	3	0	0	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	9	
小学生	全体	52	7	34	84	1	0	83	7	45	2	0	11	7	2	5	40	4	0	23	407	
	男	31	5	20	55	0	0	55	5	24	2	0	9	4	1	1	19	3	0	19	253	
	女	21	2	14	29	1	0	28	2	21	0	0	2	3	1	4	21	1	0	4	154	
中学生	全体	22	3	15	26	0	0	48	6	54	2	0	12	8	2	4	29	1	0	13	245	
	男	16	3	9	16	0	0	26	2	20	1	0	10	4	1	3	17	1	0	6	135	
	女	6	0	6	10	0	0	22	4	34	1	0	2	4	1	1	12	0	0	7	110	
高校生	全体	7	3	4	10	0	0	22	2	26	2	1	3	0	1	0	10	1	0	9	101	
	男	5	2	2	5	0	0	9	2	12	0	1	3	0	1	0	7	1	0	4	54	
	女	2	1	2	5	0	0	13	0	14	2	0	0	0	0	3	0	0	0	5	47	
大学生等	全体	5	1	3	10	1	0	12	1	12	2	2	2	1	0	2	14	0	0	12	80	
	男	5	1	2	5	1	0	5	0	8	0	2	1	1	0	2	6	0	0	5	44	
	女	0	0	1	5	0	0	7	1	4	2	0	1	0	0	0	8	0	0	7	36	
社会人	全体	10	2	9	4	0	0	5	1	6	1	2	5	0	0	12	0	0	0	6	63	
	男	6	1	3	3	0	0	3	0	3	1	1	2	0	0	4	0	0	0	4	31	
	女	4	1	6	1	0	0	2	1	3	0	1	3	0	0	8	0	0	0	2	32	
その他	全体	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	6	
	男	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	女	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	4	
不明	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	全体	105	16	71	138	2	1	175	17	144	9	5	33	16	5	11	107	6	0	1	65	927
	男	68	12	42	86	1	1	100	9	67	4	4	25	9	3	6	53	5	0	0	40	535
	女	37	4	29	52	1	0	75	8	77	5	1	8	7	2	5	54	1	0	1	25	392

② 月別・症状別にみた負傷の発生件数

月ごとに発生した負傷の症状をみたところ（表 2-3-2）、発生件数が多かった 5 月（155 件）は、「ねんざ」（32 件）や「打撲」（31 件）、「虫さされ」（25 件）による負傷が多くなっている。次いで多かった 8 月（140 件）をみると、「虫さされ」（28 件）や「打撲」（24 件）、「やけど」（17 件）が多くなっている。また、5 月から 8 月の負傷の発生件数は合わせて 549 件となっており、年間に起きた負傷の発生件数の約 6 割を占めていた。

表 2-3-2. 月別・症状別負傷発生件数

(件)

月		きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
春・夏	4月	6	2	4	3	0	0	13	3	8	1	0	3	1	0	1	3	0	0	0	8	56
	5月	17	1	8	18	0	0	31	4	32	2	0	5	3	1	0	25	0	0	0	8	155
	6月	15	2	5	35	0	0	23	3	15	1	0	1	1	1	0	19	1	0	0	10	132
	7月	13	5	12	18	0	0	26	3	14	0	0	2	2	0	4	13	3	0	1	6	122
	8月	11	2	11	17	2	0	24	1	14	1	2	6	5	1	1	28	0	0	0	14	140
	9月	10	2	6	20	0	0	12	1	18	1	0	4	2	1	1	14	2	0	0	5	99
秋・冬	10月	13	0	8	18	0	1	16	0	18	1	1	4	1	1	2	4	0	0	0	3	91
	11月	10	0	1	3	0	0	7	0	3	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	29
	12月	3	1	0	3	0	0	7	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	18
	1月	1	1	5	1	0	0	3	0	3	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	1	18
	2月	4	0	7	0	0	0	9	0	8	1	2	2	0	0	1	0	0	0	0	3	37
	3月	2	0	4	2	0	0	4	2	9	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	4	30
不明		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		105	16	71	138	2	1	175	17	144	9	5	33	16	5	11	107	6	0	1	65	927

### ③ 時間別・症状別にみた負傷の発生件数

時間ごとに発生した負傷の症状をみたところ（表 2-3-3）、発生件数の多かった 11 時や 15 時では「打撲」（11 時 25 件、15 時 17 件）や「ねんざ」（11 時 20 件、15 時 19 件）などによる負傷が多くなっている。そこで、活動時間帯ごとに発生件数の多かった症状をみると、午前（9～11 時）や夜（19～22 時）の時間帯は「打撲」（午前 47 件、夜 32 件）、午後（13～16 時）の時間帯は「ねんざ」（68 件）による負傷が多くなっている。

表 2-3-3. 時間別・症状別負傷発生件数 (件)

時間	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
起床・朝食等	6時	1	0	1	0	0	3	0	1	1	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	11
	7時	0	0	2	1	0	4	0	2	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	12
	8時	0	0	1	1	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	3	12
活動(午前)	9時	4	0	1	3	0	10	0	1	0	0	3	1	0	0	3	0	0	0	5	31
	10時	12	5	10	19	0	12	1	7	2	1	2	2	0	1	2	0	0	1	2	79
	11時	9	3	8	25	0	25	1	20	0	0	1	2	1	3	11	0	0	0	14	124
昼食	12時	8	0	5	13	0	9	2	9	1	0	1	0	0	0	12	0	0	0	3	63
活動(午後)	13時	9	0	3	13	0	13	0	10	2	1	2	2	0	2	7	0	0	0	5	69
	14時	11	0	10	5	0	14	1	20	0	0	4	1	1	0	17	0	0	0	2	86
	15時	14	6	9	10	0	17	3	19	1	0	3	0	1	2	11	2	0	0	7	105
	16時	10	2	5	17	0	14	0	19	1	1	6	1	0	1	7	0	0	0	5	89
夕食・入浴等	17時	7	0	2	10	0	11	2	10	0	0	1	0	1	1	6	0	0	0	3	54
	18時	7	0	0	2	0	7	0	2	1	0	1	2	1	0	4	0	0	0	1	28
活動(夜)	19時	2	0	4	9	1	12	5	8	0	1	1	1	0	1	12	0	0	0	2	59
	20時	5	0	3	5	1	10	2	8	0	1	2	2	0	0	2	0	0	0	8	49
	21時	2	0	3	3	0	8	0	4	0	0	2	0	0	0	3	3	0	0	3	31
	22時	2	0	4	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	11
就寝	23～5時	2	0	0	1	0	2	0	3	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	2	14
不明		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		105	16	71	138	2	175	17	144	9	5	33	16	5	11	107	6	0	1	65	927

※上記(左)の時間帯は施設の標準的な生活時間帯を示している。

### ④ 活動内容別、場所別・症状別にみた負傷の発生件数

活動内容ごとに発生した負傷の症状をみたところ（表 2-3-4）、スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）では「ねんざ」（40 件）や「打撲」（32 件）、「きり傷」（11 件）による負傷が多くなっており、次いで、野外炊事では「やけど」（73 件）や「きり傷」（23 件）、「虫さされ」（15 件）、自由時間では「打撲」（30 件）や「きり傷」（11 件）、「ねんざ」（7 件）による負傷が多くなっている。

場所ごとに発生した負傷の症状をみたところ（表 2-3-5）、体育館・プレイホール・講堂では「ねんざ」（41 件）や「打撲」（40 件）、「きり傷」（13 件）による負傷が多くなっており、次いで、屋外運動コース（登山、OL、サイクリング等）では「ねんざ」（48 件）や「虫さされ」（25 件）、「すり傷」（21 件）、野外炊飯場では「やけど」（77 件）や「きり傷」（24 件）、「虫さされ」（15 件）による負傷が多くなっている。

表 2-3-4. 活動内容別・症状別負傷発生件数

(件)

活動	さきり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	菌の破折	目のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計	
登山・ハイキング	1	1	5	1	0	0	7	1	17	1	0	0	0	0	0	1	17	1	0	0	13	66
オリエンテーリング・ウォークラリー	4	0	9	0	0	0	7	0	25	1	0	2	1	0	0	5	0	0	0	0	3	57
クロスカントリー	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
サイクリング・マウンテンバイク	0	0	3	0	0	0	4	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
アドベンチャープログラム・ミニアジアゲーム	4	2	0	0	0	0	8	0	7	0	0	1	0	0	1	6	0	0	0	0	0	29
クライミング・ボルダリング	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)	11	1	5	0	1	0	32	6	40	2	1	7	3	4	3	9	1	0	0	0	14	140
カッター・カヌー・ボート・ヨット	2	1	1	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	1	6	2	0	0	0	1	20
シュノーケリング・スキダイビング	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
海水浴・磯遊び・釣り	7	4	2	0	0	0	7	0	1	0	0	0	1	0	0	7	0	0	1	1	1	31
沢登り・川遊び	1	0	1	0	0	0	0	1	2	0	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	9
雪スキー・スノーボード	0	0	1	0	0	0	4	0	8	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	19
クロスカントリースキー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雪上活動(雪遊び、スノーシュー等)	2	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
野外炊事	23	0	2	73	1	0	8	0	2	1	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	2	127
キャンプ(テント設置等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
キャンプファイヤー・キャンデルセレモニー	2	0	1	10	0	0	4	1	6	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	2	33
創作活動(クラブ等)	12	4	1	41	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	68
自然観察	1	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	7
研修・学習活動	5	0	5	4	0	0	4	0	3	0	0	1	2	0	0	5	0	0	0	0	5	34
奉仕活動	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
自由時間	11	0	6	4	0	0	30	5	7	0	0	6	3	1	0	6	2	0	0	0	6	87
つどい(朝・夕)	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
清掃	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	7
食事	3	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	2	12
入浴	7	0	2	1	0	0	10	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	23
就寝時間(起床時も含む)	2	0	4	0	0	0	9	0	2	1	0	2	2	0	0	14	0	0	0	0	1	37
移動中	4	0	7	0	0	0	6	1	13	0	0	2	1	0	0	3	0	0	0	0	1	38
入所前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	0	10	2	0	1	17	2	7	1	1	1	2	0	2	0	0	0	0	0	5	54
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	105	16	71	138	2	1	175	17	144	9	5	33	16	5	11	107	6	0	1	65	927	

表 2-3-5. 場所別・症状別負傷発生件数

(件)

場所	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
生活エリア	7	0	6	2	0	0	35	1	6	0	0	7	4	0	1	16	1	0	0	12	98
宿泊室	5	0	8	0	0	0	10	0	13	1	0	4	1	0	0	1	0	0	0	1	44
通路・階段	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	2	9
食堂	6	0	2	1	0	0	10	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	22
浴室	8	3	3	28	0	0	7	1	3	0	0	1	2	0	0	3	0	0	0	2	61
研修室・オリエンテーション室	13	1	9	4	0	1	40	9	41	1	2	4	5	4	2	4	0	0	0	14	154
体育館・プレイホール・講堂	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	6
武道場	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
クラミングウォール	6	0	0	6	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
工作室・調理室等	24	1	2	77	0	0	7	0	2	1	0	0	0	0	2	15	0	0	0	3	134
野外炊事場	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	7
テントサイト	13	2	8	12	0	0	22	4	14	1	0	6	1	1	1	19	1	0	0	6	111
グラウンド・広場・コート等	8	1	21	0	1	0	17	2	48	2	0	7	0	0	2	25	1	0	0	16	151
屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	5
ロープコース※	8	6	2	2	1	0	12	0	1	0	0	0	2	0	0	11	0	0	1	3	49
海洋施設	2	1	7	0	0	0	7	0	8	2	3	2	0	0	2	3	0	0	0	1	38
敷地外の活動場所(バス等の移動も含む)	0	0	3	3	0	0	4	0	1	1	0	1	0	0	0	2	3	0	0	2	20
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
不明	105	16	71	138	2	1	175	17	144	9	5	33	16	5	11	107	6	0	1	65	927
計																					

※アドバンチャープログラムで使用する活動場所

⑤ 天候別・症状別にみた負傷の発生件数

天候ごとに発生した負傷した症状をみると（表 2-3-6）、晴や雨では「打撲」（晴 104 件、雨 32 件）、曇では「やけど」（43 件）、雪では「ねんざ」（4 件）による負傷が多くなっている。

表 2-3-6. 天候別・症状別負傷発生件数 (件)

天候	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
晴	65	14	52	69	2	1	104	11	81	5	2	22	10	4	7	71	5	0	1	38	564
曇	24	2	13	43	0	0	36	5	33	3	2	8	5	1	3	28	1	0	0	14	221
雨	15	0	6	26	0	0	32	1	26	1	1	2	1	0	1	8	0	0	0	13	133
雪	1	0	0	0	0	0	3	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	9
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	105	16	71	138	2	1	175	17	144	9	5	33	16	5	11	107	6	0	1	65	927

#### (4) 負傷した時の状況

##### ① 負傷の多かった活動（上位5つ）の事例

###### ア. スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）

[活動] スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)/体育館・プレイホール・講堂

症状	歯の破折(顔)	程度	重傷	傷病者	高校生・男
状況	試合中に、相手が技をかけた際、相手の右側の側頭部に自分の前歯が強く当たり負傷。				

[活動] スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)/体育館・プレイホール・講堂

症状	骨折(尻)	程度	重傷	傷病者	社会人・女
状況	ドッジボールで足を滑らせ、尾骶骨を強く打った。				

[活動] スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)/体育館・プレイホール・講堂

症状	靭帯損傷・断裂(足首)	程度	重傷	傷病者	社会人・男
状況	バドミントンのプレー中に、低く撃ち込まれたシャトルに対応するため、右足を踏み込んでラケットを差し出したときに、着地状態で伸び切っていた左足のアキレス腱が断裂した。				

[活動] スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)/体育館・プレイホール・講堂

症状	きり傷(頭)	程度	軽傷	傷病者	小学生・女
状況	バスケットボール試合中、相手選手とぶつかって、相手の歯で額が切れた。				

[活動] スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)/体育館・プレイホール・講堂

症状	脱臼(肘)	程度	軽傷	傷病者	高校生・男
状況	班別活動中、ドッジボールをしており、ボールを避けた際、足が滑り、手をついて受傷				

###### イ. 野外炊事

[活動] 野外炊事/野外炊飯場

症状	きり傷(膝)	程度	重傷	傷病者	小学生・男
状況	野外炊事場で転倒し、側溝のグレーチングにひざがあたり、えぐれるように深く切ってしまった。				

[活動] 野外炊事/野外炊飯場

症状	靭帯損傷・断裂(足首)	程度	重傷	傷病者	中学生・女
状況	野外炊事時に階段を飛び降り、足をついた際に靭帯を断裂・損傷した。				

[活動] 野外炊事/野外炊飯場

症状	きり傷(膝)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	野外炊飯中に子供達で鬼ごっこやかくれんぼをしている際、石や木でつまずいて膝に石が刺さるように当たった。				

[活動] 野外炊事/野外炊飯場

症状	やけど(手・指)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	野外炊飯の片付け中、かまどのあみを素手で触ってしまった。				

## ウ. 自由時間

[活動] 自由時間/体育館・プレイホール・講堂

症状	きり傷(顔)	程度	重傷	傷病者	その他・女
状況	友達と遊んで走っていたところ、転んで顎を塚に打ち付け、顎を八針縫うけがをした。				

[活動] 自由時間/その他

症状	骨折(手首)	程度	重傷	傷病者	中学生・男
状況	鬼ごっこ中、走っていて草で滑って転倒し、手をついた際に右手首を強くひねった。				

[活動] 自由時間/宿泊室

症状	骨折(足・指)	程度	重傷	傷病者	小学生・女
状況	就寝の準備中、二段ベッドの角に左足小指をぶつけた。				

[活動] 自由時間/宿泊室

症状	きり傷(頭)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	部屋の中で追いかっこをして滑り転倒、ベッドの角に頭部を打った。				

[活動] 自由時間/宿泊室

症状	打撲(尻)	程度	軽傷	傷病者	小学生・女
状況	棚に置いていた水筒の紐が床に落ちていたのに気づかず、足に引っかかり転倒し、臀部を強打した。				

## エ. 登山・ハイキング

[活動] 登山・ハイキング/屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	すり傷(膝)	程度	軽傷	傷病者	中学生・女
状況	登山後、駐車場へ行く途中の階段で転倒し、膝を負傷した。				

[活動] 登山・ハイキング/テントサイト

症状	やけど(前腕)	程度	軽傷	傷病者	小学生・女
状況	ガスランタンを使用していたところ、腕に当たって受傷した。				

[活動] 登山・ハイキング/屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	靭帯損傷・断裂(足首)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	滝で弁当を食べている時、下にある水筒を取ろうとしたら、足を滑らせて1.5m程落下し、足から着地したが、岩の上で足首を捻った。				

[活動] 登山・ハイキング/屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	ねんざ(足首)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	下山中、石と石の間に左足が挟まり、抜こうとして足首を捻った。				

## オ. 創作活動（クラフト等）

[活動] 創作活動(クラフト等)/野外炊飯場

症状	きり傷(手・指)	程度	軽傷	傷病者	中学生・男
状況	マイスプーン製作中に、誤って彫刻刀で添えていた左手の指を切った。				

[活動] 創作活動(クラフト等)/工作室・調理室等

症状	きり傷(手・指)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	のこぎりで木を切っていて、誤って自分の指を切った。				

[活動] 創作活動(クラフト等)/その他

症状	やけど(手首)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	焼き板体験中、バーナーの先に手が当たり負傷。				

[活動] 創作活動(クラフト等)/野外炊飯場

症状	目のけが(眼)	程度	軽傷	傷病者	小学生・女
状況	焼き板を磨いていた際、灰が舞って目に入った。				

## ② その他の活動で特徴的だった事例

[活動] 海水浴・磯遊び・釣り/海洋施設

症状	きり傷(膝)	程度	重傷	傷病者	小学生・女
状況	磯観察をしている時、岩場で滑り、岩で膝を切った。				

[活動] 沢登り・川遊び/屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	骨折(胸)	程度	重傷	傷病者	社会人・男
状況	沢登り中、掴んだ木が抜けて、岩から滑り落ちて強打した。				

[活動] 雪上活動(雪遊び、スノーシュー等)/屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	骨折(顔)	程度	重傷	傷病者	小学生・男
状況	そり遊びをしていて滑走中に指導者に接触した。				

[活動] 入浴/浴室

症状	きり傷(顔)	程度	重傷	傷病者	小学生・男
状況	風呂上りの脱衣場でのぼせて倒れてしまい、顎を打ち切り傷ができた(病院で縫合)。				

### 3. 疾病の概況

#### (1) 疾病の状態

疾病の症状をみると（表 3-1-1）、「発熱」（1108 件）が最も多く、次いで「頭痛」（249 件）、「嘔吐」（167 件）となっている。発熱の理由を尋ねたところ、熱中症による発熱は 89 件であった。

疾病が発症した要因（複数回答）をみると（表 3-1-2）、「疲労（本人）」（1159 件）が最も多く、次いで「気温（環境）」（407 件）、「不安・心配・緊張（本人）」（317 件）、となっており、本人に係る要因（2275 件）がおおよそ 6 割弱を占めていた。

疾病の発症時期をみると（表 3-1-3）、「急に」（1170 件）が最も多く、次いで「今朝から」（534 件）、「前日から」（220 件）となっている。

表 3-1-1. 症状別疾病発生件数・割合

症状	件	%
発熱	1108	50.9
咳・喉の痛み	73	3.4
くしゃみ・鼻水	4	0.2
喘息	17	0.8
過呼吸	12	0.6
頭痛	249	11.4
めまい	45	2.1
吐き気	138	6.3
嘔吐	167	7.7
腹痛	100	4.6
下痢	4	0.2
生理痛	22	1.0
歯痛	0	0.0
脱水	9	0.4
けいれん	15	0.7
倦怠感(だるさ)	112	5.1
発疹	25	1.1
低体温	4	0.2
その他	73	3.4
計	2177	100.0

<その他>

乗り物酔い、寒気、低血糖、貧血 等

表 3-1-3. 発症時期別疾病発生件数・割合

時期	件	%
数日前から	65	3.0
前日から	220	10.1
今朝から	534	24.5
急に	1170	53.7
その他	122	5.6
不明	66	3.0
計	2177	100.0

<その他>

入所前、バス乗車中、食後、等

表 3-1-2. 要因別疾病発生件数・割合

(複数回答)

要因	件	%	%
本人			59.7
失敗	12	0.6	
不注意	23	1.1	
不慣れ	163	7.5	
不適切な行動	9	0.4	
寝不足	291	13.4	
疲労	1159	53.2	
不安・心配・緊張	317	14.6	
体力不足	179	8.2	
人間関係(けんか、ふざけ等)	8	0.4	
既往症	84	3.9	
アレルギー	30	1.4	
指導・引率者			4.1
指導不足	28	1.3	
注意不足	70	3.2	
経験不足	26	1.2	
人数不足	7	0.3	
連携不足	12	0.6	
準備不足	12	0.6	
装備			0.9
不適切な服装	19	0.9	
装備不備	7	0.3	
装備不良(破損・劣化)	1	0.0	
施設・設備の故障・不具合	6	0.3	
環境			24.0
荒天(強風、雷、吹雪等)	16	0.7	
気温	407	18.7	
日差し	163	7.5	
高度(標高)	21	1.0	
雪	4	0.2	
落石・落木	0	0.0	
不安定さ・滑りやすさ	0	0.0	
虫・動物	7	0.3	
植物	16	0.7	
病原体(ウイルス等)	279	12.8	
その他	265	12.2	7.0
不明	170	7.8	4.5
回答者数	2177		↑

※上記の数値は回答数(N=3811)を基に割合を算出

(2) 症状別にみた疾病の要因、発症時期、処置・静養後の対応

症状ごとに疾病の発症要因（複数回答）をみると（表 3-2-1）、発熱では「疲労（本人）」（603 件）、「病原体（ウイルス等）」（247 件）、「気温（環境）」（175 件）が多くなっており、頭痛では「疲労（本人）」（142 件）、「気温（環境）」（81 件）、「日差し（環境）」（57 件）、嘔吐では「疲労（本人）」（84 件）、「不安・心配・緊張（本人）」（39 件）、「寝不足（本人）」や「気温（環境）」（ともに 28 件）による発症が多くなっている。

表 3-2-1. 要因別・症状別疾病発生件数

(複数回答:件)

要因		発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感(だるさ)	発疹	低体温	その他
本人	失敗	2	0	0	0	0	1	0	2	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不注意	6	1	0	0	0	3	1	5	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	不慣れ	59	3	0	0	3	32	6	14	13	9	0	0	0	2	0	8	1	2	11
	不適切な行動	0	0	0	0	0	2	1	2	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	寝不足	99	7	0	2	0	56	15	34	28	17	0	1	0	2	0	22	2	1	5
	疲労	603	37	3	7	8	142	21	80	84	46	3	9	0	5	6	65	9	1	30
	不安・心配・緊張	95	7	1	3	4	36	6	30	39	37	3	6	0	1	1	25	3	0	20
	体力不足	79	4	1	0	1	22	5	17	10	9	0	0	0	4	0	21	1	2	3
	人間関係	1	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	既往症	9	4	0	6	0	19	4	4	9	5	0	3	0	0	6	2	2	0	11
アレルギー	3	2	0	4	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	13	0	5	
指導・引率者	指導不足	6	1	0	0	0	6	3	4	4	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0
	注意不足	16	2	0	0	2	10	3	6	15	4	0	1	0	1	1	5	0	1	3
	経験不足	14	1	0	0	1	3	1	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
	人数不足	1	0	0	0	0	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	連携不足	8	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	準備不足	6	0	0	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1
装備	不適切な服装	10	0	0	0	0	1	0	3	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	装備不備	1	0	0	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	装備不良	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	施設・設備の故障・不具合	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1
環境	荒天	10	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	気温	175	7	1	0	1	81	11	32	28	13	0	2	0	5	1	35	1	2	12
	日差し	45	1	0	1	0	57	5	11	7	2	0	2	0	3	0	22	0	1	6
	高度(標高)	7	0	0	0	1	7	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	雪	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	落石・落木	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不安定さ・滑りやすさ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	虫・動物	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1
	植物	6	3	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1
	病原体(ウイルス等)	247	15	0	0	0	4	0	2	7	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0
その他	116	9	0	1	1	19	5	20	42	16	0	6	0	0	4	7	7	0	12	
不明	113	5	0	2	1	10	1	3	9	6	0	4	0	0	1	9	2	0	4	
回答者数(N=2177)		1108	73	4	17	12	249	45	138	167	100	4	22	0	9	15	112	25	4	73

症状ごとに疾病の発症時期をみると（表 3-2-2）、発熱、頭痛、嘔吐では、「急に」（発熱 573 件、頭痛 144 件、嘔吐 111 件）が最も多く、次いで「今朝から」（発熱 300 件、頭痛 55 件、嘔吐 36 件）となっている。

表 3-2-2. 発症時期別・症状別疾病発生件数

(件)

時期	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
数日前から	32	12	0	2	0	4	1	0	1	3	2	4	0	0	0	2	0	0	2	65
前日から	108	24	1	3	0	24	2	14	9	9	0	5	0	1	0	11	6	0	3	220
今朝から	300	21	1	1	1	55	6	40	36	28	0	8	0	0	1	25	1	1	9	534
急に	573	13	1	10	10	144	31	73	111	50	2	2	0	7	13	65	18	3	44	1170
その他	51	1	0	1	1	18	5	8	7	8	0	3	0	1	0	5	0	0	13	122
不明	44	2	1	0	0	4	0	3	3	2	0	0	0	0	1	4	0	0	2	66
計	1108	73	4	17	12	249	45	138	167	100	4	22	0	9	15	112	25	4	73	2177

症状ごとに処置・静養後の対応をみると（表 3-2-3）、発熱では「活動継続」（281 件）より「帰宅」（811 件）のほうが多くなっており、発熱の症状が出た者の 7 割強が帰宅している状況であった。

表 3-2-3. 処置・静養後の対応別・症状別疾病発生件数

(件)

処置・静養後	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
活動継続	281	29	2	10	10	184	39	96	103	73	1	15	0	7	5	90	21	3	57	1026
帰宅	811	43	2	7	1	62	6	41	61	27	3	7	0	2	10	22	4	1	15	1125
不明	16	1	0	0	1	3	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	26
計	1108	73	4	17	12	249	45	138	167	100	4	22	0	9	15	112	25	4	73	2177

(3) 状況別・症状別にみた疾病の発生件数

① 年齢期別・性別・症状別にみた疾病の発生件数

年齢期ごとに発症した疾病の症状をみたところ（表 3-3-1）、小学生、中学生、高校生ともに「発熱」（小学生 577 件、中学生 256 件、高校生 84 件）が多く、小学生では「頭痛」（121 件）や「嘔吐」（117 件）も多くなっている。

疾病の症状を男女で比較すると、男性は「発熱」（601 件）や「嘔吐」（108 件）、女性は「頭痛」（130 件）や「腹痛」（58 件）などの症状が多くなっている。

表 3-3-1. 年齢期別・性別・症状別疾病発生件数

(件)

期	性別	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみやみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感(だるさ)	発疹	低体温	その他	計
幼児	全体	50	1	0	0	0	1	0	3	14	0	0	0	0	0	2	3	0	1	1	76
	男	26	1	0	0	0	0	0	2	5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	36
	女	24	0	0	0	0	1	0	1	9	0	0	0	0	0	1	3	0	1	0	40
小学生	全体	577	23	3	7	3	121	12	70	117	47	2	5	0	1	3	55	10	1	32	1089
	男	318	17	2	5	1	72	5	40	81	25	1	0	0	1	2	37	5	0	17	629
	女	259	6	1	2	2	49	7	30	36	22	1	5	0	0	1	18	5	1	15	460
中学生	全体	256	14	0	5	3	66	12	30	17	25	1	7	0	3	3	28	7	2	16	495
	男	140	9	0	2	1	29	6	10	11	9	0	0	0	2	1	10	3	1	5	239
	女	116	5	0	3	2	37	6	20	6	16	1	7	0	1	2	18	4	1	11	256
高校生	全体	84	11	0	2	2	33	6	23	9	16	0	6	0	3	5	11	5	0	12	228
	男	42	5	0	0	0	11	2	10	8	6	0	0	0	1	4	1	2	0	5	97
	女	42	6	0	2	2	22	4	13	1	10	0	6	0	2	1	10	3	0	7	131
大学生等	全体	107	18	0	2	3	14	7	6	4	6	1	2	0	1	1	9	1	0	9	191
	男	60	9	0	1	1	6	3	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	85
	女	47	9	0	1	2	8	4	5	3	6	1	2	0	1	0	8	1	0	8	106
社会人	全体	32	6	1	1	1	13	8	6	5	6	0	2	0	1	1	6	2	0	2	93
	男	13	3	0	1	1	4	2	1	2	0	0	0	0	1	0	4	0	0	2	35
	女	19	3	1	0	0	12	4	4	4	4	0	2	0	0	1	2	2	0	0	58
その他	全体	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
	男	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
	女	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
不明	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	全体	1108	73	4	17	12	249	45	138	167	100	4	22	0	9	15	112	25	4	73	2177
	男	601	44	2	9	4	119	20	65	108	42	1	0	0	5	9	53	10	1	32	1125
	女	507	29	2	8	8	130	25	73	59	58	3	22	0	4	6	59	15	3	41	1052

② 月別・症状別にみた疾病の発生件数

月ごとに発症した疾病の症状をみたところ（表 3-3-2）、いずれの月でも「発熱」の発生件数が多くなっている。発生件数が最も多かった8月（369件）をみると、「発熱」（159件）に次いで「頭痛」（66件）や「嘔吐」（24件）なども多くなっていた。

表 3-3-2. 月別・症状別疾病発生件数 (件)

月	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみやみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計	
春・夏	4月	38	8	1	2	3	26	2	23	3	14	1	6	0	2	3	12	2	0	8	154
	5月	65	5	0	1	1	27	5	11	15	19	1	3	0	1	0	14	2	0	9	179
	6月	95	2	0	1	1	20	6	15	22	10	0	1	0	1	4	9	5	0	7	199
	7月	136	6	0	2	0	41	11	25	36	11	0	6	0	2	2	19	4	3	13	317
	8月	159	10	1	4	1	66	16	22	24	20	0	1	0	1	4	20	6	0	14	369
	9月	154	11	1	2	3	33	3	13	6	7	1	4	0	2	0	24	2	0	7	273
秋・冬	10月	169	4	0	2	0	8	0	9	19	5	0	1	0	0	1	3	3	0	5	229
	11月	89	7	0	1	0	7	0	11	9	4	0	0	0	0	5	0	0	3	136	
	12月	62	11	1	0	1	6	0	2	2	5	0	0	0	0	1	1	0	0	2	94
	1月	45	1	0	0	0	2	1	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56
	2月	52	1	0	2	0	3	1	1	12	0	0	0	0	0	0	2	0	1	3	78
	3月	44	7	0	0	2	10	0	4	14	5	1	0	0	0	0	3	1	0	2	93
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	1108	73	4	17	12	249	45	138	167	100	4	22	0	9	15	112	25	4	73	2177	

### ③ 時間別・症状別にみた疾病の発生件数

時間ごとに発症した疾病の症状をみたところ（表 3-3-3）、すべての時間で「発熱」が多くなっている。次に多い症状をみると、9時から16時までの時間帯は主に「頭痛」が多くなっており、6時から8時の時間帯は「嘔吐」が多い状況となっている。

表 3-3-3. 時間別・症状別疾病発生件数

(件)

時間		発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
起床・朝食等	6時	67	1	0	0	1	3	0	8	4	0	0	1	0	0	0	3	2	0	2	92
	7時	82	14	0	1	0	9	5	11	14	7	0	3	0	0	3	10	0	1	3	163
	8時	90	6	0	0	0	11	3	13	16	12	0	2	0	0	1	5	1	0	5	165
活動（午前）	9時	62	7	0	0	0	19	6	18	14	9	0	1	0	0	0	7	0	0	4	147
	10時	48	1	1	1	1	20	6	12	11	13	0	5	0	0	0	9	1	0	6	135
	11時	48	1	1	2	2	38	7	6	7	4	1	1	0	1	1	17	2	1	4	144
昼食	12時	73	4	1	1	0	16	4	15	13	8	0	1	0	1	1	8	2	1	6	155
活動（午後）	13時	72	1	0	0	2	11	6	6	13	4	1	3	0	1	2	9	2	0	7	140
	14時	42	3	0	1	2	18	2	12	5	10	0	0	0	2	0	8	2	1	8	116
	15時	53	3	0	0	1	27	2	7	4	1	0	2	0	0	0	9	2	0	7	118
	16時	66	4	0	0	1	20	0	4	4	3	0	0	0	2	0	8	0	0	3	115
夕食・入浴等	17時	66	5	0	0	1	7	1	2	6	2	0	1	0	1	1	7	1	0	3	104
	18時	73	9	1	1	0	9	1	5	14	5	1	0	0	1	0	4	1	0	3	128
活動（夜）	19時	47	4	0	4	0	16	1	8	16	10	1	0	0	0	3	4	1	0	5	120
	20時	64	2	0	2	0	7	1	3	4	6	0	1	0	0	1	1	3	0	1	96
	21時	59	4	0	1	0	9	0	4	7	0	0	1	0	0	2	0	1	0	3	91
	22時	42	2	0	2	1	5	0	1	7	3	0	0	0	0	0	0	2	0	2	67
就寝	23～5時	34	2	0	1	0	4	0	3	8	3	0	0	0	0	0	3	2	0	1	61
不明		20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
計		1108	73	4	17	12	249	45	138	167	100	4	22	0	9	15	112	25	4	73	2177

### ④ 活動内容別・場所別・症状別にみた疾病の発生件数

活動内容ごとに発症した疾病の症状をみると（表 3-3-4）、自由時間では「発熱」（211件）や「嘔吐」（21件）、「頭痛」（19件）、研修・学習活動では「発熱」（113件）や「頭痛」（41件）、「嘔吐」（26件）といった症状が多くなっている。また、就寝時間（起床時間も含む）では「発熱」（154件）や「嘔吐」（24件）、「吐き気」（13件）といった症状が多くなっている。

場所ごとに発症した疾病の症状をみると（表 3-3-5）、宿泊室では「発熱」（399件）や「嘔吐」（44件）、「頭痛」（37件）の症状が多くなっている。次いで、体育館・プレイホール・講堂や研修室・オリエンテーション室では「発熱」（体育館等136件、研修室等125件）や「頭痛」（体育館等38件、研修室等33件）、「腹痛」（ともに20件）などの症状が多くなっている。

(件)

表 3-3-4. 活動内容別症状別疾病発生件数

活動場所	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感(だるさ)	発疹	低体温	その他	計
登山・ハイキング	46	0	0	0	1	27	4	4	4	2	0	1	0	1	0	2	1	0	4	97
オリエンテーリング・ウォークラリー	43	2	1	3	1	22	4	11	3	7	2	3	0	1	0	22	3	0	7	135
クロスカントリー	11	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
サイクリング・マウンテンバイク	1	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
アドベンチャープログラム・ミニシアターゲーム	20	1	0	0	0	5	0	0	4	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	33
クライミング・ボルダリング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)	105	8	1	3	3	15	2	6	9	6	0	0	0	4	0	8	0	0	5	175
カッター・カヌー・ボート・ヨット	22	0	0	0	0	20	1	5	2	1	0	0	0	0	0	3	1	0	4	59
シュノーケリング・スキューバダイビング	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
海水浴・磯遊び・釣り	10	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	16
沢登り・川遊び	5	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	9
スキー・スノーボード	11	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	14
クロスカントリースキー	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
雪上活動(雪遊び、スノーシュー等)	4	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	9
野外炊事	64	4	0	1	1	17	1	12	9	8	0	2	0	1	1	5	4	0	6	136
キャンプ(テント設置等)	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5
キャンプファイヤー・キャンダルセレモニー	41	2	0	0	0	6	1	2	2	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	58
創作活動(クラフト等)	32	0	0	0	1	10	0	1	2	3	0	0	0	0	0	4	0	0	3	56
自然観察	12	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	20
研修・学習活動	113	18	1	3	2	41	9	15	8	26	0	3	0	0	1	24	1	0	13	278
奉仕活動	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
自由時間	211	18	0	1	0	19	4	16	21	9	1	4	0	0	0	9	2	0	4	319
つどい(朝・夕)	10	4	0	0	0	3	3	5	5	3	0	2	0	0	3	4	0	0	0	42
清掃	17	0	0	0	0	2	1	5	2	4	0	0	0	0	0	2	1	0	0	34
食事	82	1	0	1	0	12	5	20	51	12	0	0	0	0	4	4	0	0	8	200
入浴	2	0	0	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3	0	1	0	1	11
就寝時間(起床時も含む)	154	9	0	3	2	8	1	13	24	4	0	1	0	0	0	8	5	1	6	239
移動中	19	0	0	0	0	3	1	13	7	3	0	0	0	0	0	1	1	0	3	51
入所前	2	0	0	0	0	1	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	9
その他	60	2	0	1	1	21	8	4	6	9	0	6	0	1	2	8	2	0	4	135
不明	5	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	9
計	1108	73	4	17	12	249	45	138	167	100	4	22	0	9	15	112	25	4	73	2177

表 3-3-5. 場所別・症状別疾病発生件数・割合

(件)

場所	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	菌痛	脱水	けいれん	倦怠感(だるさ)	発疹	低体温	その他	計
	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	菌痛	脱水	けいれん	倦怠感(だるさ)	発疹	低体温	その他	
生活エリア	399	26	0	4	2	37	2	31	44	17	1	3	0	0	1	17	6	1	10	601
宿泊室	10	1	0	1	0	5	2	5	7	2	0	0	0	0	0	4	1	0	0	38
通路・階段	65	2	0	1	0	9	2	18	47	11	0	0	0	0	2	3	0	0	6	166
食堂	2	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	1	10
浴室	125	11	1	2	2	33	10	15	11	20	0	3	0	0	3	15	1	0	16	268
研修室・オリエンテーション室	136	15	1	4	2	38	9	11	18	20	0	6	0	2	2	18	3	0	7	292
体育館・プレイホール・講堂	2	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8
武道場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
クライミングウォール	5	0	0	0	0	2	0	1	1	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	13
工作室・調理室等	66	4	0	1	1	16	2	11	8	7	0	2	0	1	1	6	3	0	6	135
野外炊事場	11	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
テントサイト	78	6	0	1	1	16	7	11	13	9	0	5	0	0	3	14	0	1	5	170
グラウンド・広場・コート等	98	5	2	2	2	53	7	13	6	6	2	3	0	3	0	25	3	1	10	241
屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
ロープスコース※	26	0	0	0	0	18	1	3	2	1	0	0	0	0	0	3	1	1	5	61
海洋施設	61	1	0	0	0	14	1	13	7	4	1	0	0	2	0	4	0	0	5	113
敷地外の活動場所(バス等の移動も含む)	18	2	0	0	1	2	1	4	2	1	0	0	0	0	0	2	2	0	1	36
その他	4	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
不明	1108	73	4	17	12	249	45	138	167	100	4	22	0	9	15	112	25	4	73	2177
計																				

※アドベンチャープログラムで使用する活動場所

⑤ 天候別・症状別にみた疾病の発生件数

天候ごとに発症した疾病の症状をみたところ（表 3-3-6）、いずれの天候も「発熱」（晴 724 件、曇 210 件、雨 132 件、雪 41 件）が多くなっている。

表 3-3-6. 天候別症状別疾病発生件数

(件)

天候	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感(だるさ)	発疹	低体温	その他	計
晴	724	45	2	9	5	181	29	94	105	57	2	18	0	7	9	76	19	1	50	1433
曇	210	10	0	4	5	29	8	29	36	21	0	2	0	1	4	25	3	2	12	401
雨	132	13	1	4	2	34	7	15	23	19	1	2	0	1	1	9	3	1	11	279
雪	41	5	1	0	0	5	1	0	3	3	1	0	0	0	1	2	0	0	0	63
不明	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	1108	73	4	17	12	249	45	138	167	100	4	22	0	9	15	112	25	4	73	2177

## IV. 傷病の特徴と今後の安全対策

---

### 1. 負傷の特徴と安全対策

#### (1) 負傷の特徴

- 負傷が多かった症状は「打撲」、「ねんざ」、「やけど」で、打撲では「頭」の負傷、ねんざでは「足首」の負傷、やけどでは「手・指」の負傷が多くなっている。
- 負傷が多かった活動は「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」、「野外炊事」、「自由時間」で、スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）では「ねんざ」、「打撲」、「きり傷」が多く、野外炊事では「やけど」、「きり傷」、「虫さされ」、自由時間では「打撲」、「きり傷」、「ねんざ」による負傷が多くなっている。
- 活動で負傷した時の主な状況をみると、「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」では「バドミントンのプレー中に右足を踏み込んだ際、左足のアキレス腱が断裂」「ドッジボールで足を滑らせ、尾骶骨を強く打って骨折」、野外炊事では「野外炊事場で転倒し、側溝のグレーチングに膝が当たり深く切った」、「階段を飛び降り、足をついた際に靭帯を断裂・損傷」、自由時間では「鬼ごっこ中に草で滑って転倒し、右手首を強くひねって骨折」、「友達と走って遊んでいたところ、転んで顎を強く打ち、八針縫うけがをした」といった状況で負傷している。
- 負傷が発生した時間をみると、活動（午前）・活動（午後）ともに後半の時間帯になるにつれ、負傷の割合が高くなる傾向がみられる。
- 負傷した要因をみると、本人の「不注意」、「不慣れ」、「失敗」、指導・引率者の「注意不足」、「指導不足」、環境の「虫・動物」、「不安定さ・滑りやすさ」が多く挙げられている。

#### (2) 今後の安全対策

##### <研修支援における安全管理や安全指導の点検・改善>

- 「野外炊事」については、前回調査に比べ、負傷に占める割合が高くなっており（前回 7.8% → 今回 13.7%）、けがをした状況をみると、調理中の刃物によるきり傷や不注意によるやけどといったけがが多いものの、一部では活動中に遊んでいて靭帯損傷・断裂やきり傷といったけがをしているケースも見受けられた。
- 新型コロナウイルスの流行で活動を控えていた利用団体が戻りつつあるなか、今までは起きていなかった負傷が増えているという話を施設から聞くことがある。そのため、施設では、子どもたちの野外活動等の経験不足だけでなく、引率・指導者の指導経験の不足も想定しながら、研修支援における安全管理や安全指導（事前打ち合わせやセーフティトーク等）の内容を点検するとともに、必要に応じて改善を図る必要がある。

##### <活動前・活動中の安全指導の徹底と状況に応じた安全管理や安全対策の実施>

- これまでの調査結果と同様、負傷の要因の大半を「本人」の要因（不注意、不慣れ、失敗等）が占めているものの、「指導者・引率者」の要因を指摘する回答も 2 割弱あることから、今後の安全対策として引き続き以下の点に留意する必要がある。
  - ・指導者や引率者、施設職員等は、入所時や活動前の安全指導（施設ではどのような事故やけがが起きやすいのか、それらはどうすれば防げるのかをイメージしやすいように、具体例を交えて分かりやすく説明する等）を徹底し、利用者の安全意識（自分の身は自分で守る、他の人の安全にも気を配る等）の向上に努めるようにする。
  - ・指導者は、活動前だけでなく、活動中も事故やけがの予兆を見逃さないよう危険の発見、把握に努め、状況に応じて適切な安全指導や安全対策を行うようにする。特に、活動の後半は

慣れや疲れ等で気が緩みやすくなるため、参加者に適宜声をかけたり、休憩をとるように指導する。

- 上記の点を踏まえ、施設では、事前打ち合わせやプログラム体験会等の際に、安全意識啓発チラシ（巻末資料を参照）を活用しながら施設で起きやすい事故やけがとその安全対策を丁寧に説明し、利用団体の指導者・引率者が適切な安全管理や安全指導を行えるように支援する。その際、指導者・引率者の人数や体制だけでなく、活動に対する理解や経験なども確認し、利用団体の状況に応じた支援を行うようにする。

## 2. 疾病の特徴と安全対策

### (1) 疾病の特徴

- 発症した疾病の症状をみると、「発熱」、「頭痛」、「嘔吐」が上位を占めており、いずれの症状も本人の「疲労」が主な要因として挙げられている。
- 疾病の申し出があった時間帯をみると、他の時間帯に比べ、起床・朝食や昼食の時間帯に疾病の申し出が多い傾向がみられた。
- 疾病が発症した時期をみると、5割以上が急に体調を崩しているが、疾病を申し出た者の3割半は朝や前日など事前に体調不良を感じている。
- 疾病が発症した後の対応をみると、疾病を申し出た者の半数は帰宅している状況にあり、中でも発熱の症状が出た者については7割強が帰宅となっていた。

### (2) 今後の安全対策

- 施設での生活は、普段の生活とは異なり、慣れない環境による不安や緊張で寝不足になり、その上、普段の生活より体を動かしている時間が長いため、思った以上に疲れがたまりやすい環境にある。そのため、体調を崩し、発熱や頭痛、嘔吐といった症状が出てしまうと、病状によっては休養しても活動を続けることが難しくなり、帰宅しなければならないことも考えられる。
- 指導者は、施設生活の特性を理解し、計画段階では、利用者の年齢や体力に合わせた無理のない活動計画を立てるようになるとともに、利用期間中は、定期的に健康チェックを行い、疲れしている様子が見られる利用者には適宜休憩を取らせ、体調を崩さないように配慮するなど、利用者の疲れ具合や体調に合わせた柔軟なプログラム運営を心がけるようにする。

## 傷病記録

(様式1③)

### 1. 傷病者

1-1. 傷病者の情報をお書きください。

団体名：\_\_\_\_\_ 氏名：\_\_\_\_\_ 性別：1. 男 2. 女  
 年齢：\_\_\_\_\_ 歳 (1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生 5. 大学生等 6. 社会人 7. その他)

1-2. けがが発生した又は病気の申し出のあった日時、環境、活動場所、活動内容、対応等をお書きください。

日時：20\_\_年\_\_月\_\_日 \_\_時頃(24時) 利用者数：\_\_\_\_\_名(うち指導者\_\_名)

日程：全\_\_日中\_\_日目 天候：1. 晴 2. 曇 3. 雨 4. 雪 環境：1. 屋内 2. 屋外

活動場所：\_\_\_\_\_ 活動内容：\_\_\_\_\_

病院の受診：1. 無 2. 有(日帰り) 3. 有(入院) 処置・静養後：1. 活動継続 2. 帰宅

以下、病気の場合は「2.」、けがの場合は「3.」を記入し、最後に「4. 傷病の要因」についてお答えください。

### 2. 病気

2-1. 以下から最も当てはまる「症状」を選び、その「発症時期」をお答えください。(○はそれぞれ1つ)

【症状】 1. 発熱(→ a. 熱中症による b. 熱中症以外による) 2. 咳・喉の痛み 3. くしゃみ・鼻水 4. 喘息  
 5. 過呼吸 6. 頭痛 7. めまい 8. 吐き気 9. 嘔吐 10. 腹痛 11. 下痢 12. 生理痛 13. 歯痛  
 14. 脱水 15. けいれん 16. 倦怠感(だるさ) 17. 発疹 18. 低体温 19. その他( )

【時期】 1. 数日前から 2. 前日から 3. 今朝から 4. 急に 5. その他( )

### 3. けが

3-1. 以下から最も当てはまる「症状」を選び、その「部位」と「程度」をお答えください。(○はそれぞれ1つ)

【症状】 1. きり傷 2. さし傷 3. すり傷 4. やけど 5. 日焼け 6. 凍傷 7. 打撲 8. 突き指  
 9. ねんざ 10. 靭帯損傷・断裂 11. 脱臼 12. 骨折 13. 鼻血 14. 歯の破折 15. 眼のけが  
 16. 虫刺され(→ a. アブ・ブヨ b. ハチ c. ダニ d. 毛虫 e. ムカデ f. クラゲ g. その他( ))  
 17. かぶれ 18. 気道閉塞・誤嚥 19. 溺水 20. その他( )

【部位】 1. 頭 2. 顔 3. 眼 4. 首 5. 肩 6. 上腕 7. 肘 8. 前腕 9. 手首 10. 手・指 11. 胸  
 12. 腹 13. 背中 14. 腰 15. 尻 16. 大腿 17. 膝 18. 下腿 19. 足首 20. 足・指 21. 全身

【程度】 1. 軽微(その場で手当てできる軽いけが) 2. 軽傷(医師による1か月未満の治療を要するけが)  
 3. 重傷(医師による1か月以上の治療を要するけが) 4. 致命傷(死亡・後遺症が残る重篤なけが)

3-2. けがをした時の状況(何をしていた、どのようにけがをしたのか)を具体的にお書きください。

### 4. 傷病の要因

4-1. 傷病が発生した要因と思われる事柄を以下から選んでください。(○はいくつでも)

【本人】 1. 失敗 2. 不注意 3. 不慣れ 4. 不適切な行動 5. 寝不足 6. 疲労 7. 不安・心配・緊張  
 8. 体力不足 9. 人間関係(けんか、ふざけ等) 10. 既往症 11. アレルギー

【指導・引率者】 12. 指導不足 13. 注意不足 14. 経験不足 15. 人数不足 16. 連携不足 17. 準備不足

【装備等】 18. 不適切な服装 19. 装備不備 20. 装備不良(破損・劣化) 21. 施設・設備の欠陥・不良

【環境】 22. 荒天(強風、雷、吹雪等) 23. 気温 24. 日差し 25. 高度(標高) 26. 水深 27. 雪  
 28. 落石・落木 29. 不安定さ・滑りやすさ 30. 虫・動物 31. 植物 32. 病原体(ウィルス等)

【その他】 33. その他(1.~32.以外の要因)( )

施設記入欄

受理者：\_\_\_\_\_ ※受理者は記入漏れがないか受取時に確認してください。

【事業種別】 1. 研修支援 2. 教育事業 【No】 \_\_\_\_\_ (年度の通し番号)

# 安全は 楽しい活動の第一歩

## スポーツ活動

(野球、サッカー、テニス等)



### 多いけが

- ①打撲②ねんざ③突き指

### けがをした状況

- ボールをよけた時に人とぶつかって転倒し、後頭部を強打
- 走っている時に足をひねってねんざ

### 安全指導のポイント

- 活動中は周りをよく見ながら動くように指導する。
- 活動前にウォーミングアップやストレッチをして筋肉を伸ばし、体をほぐすようにする。



## 登山・ハイキング



### 多いけが

- ①ねんざ②虫さされ③打撲

### けがをした状況

- 下山中、足場の悪いところで足をひねってねんざ
- 下山後、足首をみたらマダニがついていた。

### 安全指導のポイント

- 下山中は疲労で注意力が低下しやすいことから、適宜、休憩を取り、足場が悪いところは注意しながら歩くよう指導する。
- ハチやマダニの被害を防ぐため、登山に適した服装や着方(シャツの裾をズボンに入れる等)をするように指導する。



## 野外炊事



### 多いけが

- ①やけど②きり傷③虫さされ

### けがをした状況

- 火起こしの時に火の粉が飛んできて腕をやけど
- 薪を押さえていた手にナタが当たり、指を切った。

### 安全指導のポイント

- 軍手、長袖、長ズボンなど野外炊事に適した服装をするように指導する。
- 包丁やナタの使い方を説明するだけでなく、誤った持ち方や動かし方を実際に見せながら安全な使い方を分かりやすく説明する。



## 自由時間



### 多いけが

- ①打撲②きり傷③すり傷

### けがをした状況

- 友だちとふざけて遊んでいたら壁に頭をぶつけて出血
- ベッドで跳んで遊んでいたら落ちてしまい、ベッドの角で足をぶつけて切れた。

### 安全指導のポイント

- 自由時間は気が緩みやすく、けがが多いことを伝え、安全意識(自分の身は自分で守る、他の人の安全にも気を配る等)の向上に努める。
- 廊下や部屋を走り回ったり、ベッドや階段で遊ばないように指導する。



## これも気をつけたい! 熱中症



熱中症といえば、気温や日差しといった環境要因が目がいきがちですが、疲労や体力不足、寝不足、水分不足といった本人の状態も影響してきます。また、屋外活動だけでなく、雨の日の屋内活動や夜の時間帯でも熱中症は起きているので注意が必要です。そのため、活動中は子どもの様子をよく観察し、無理のない活動を心がけるようにしましょう。

「熱中症を予防しよう-知って防ごう熱中症-」パンフレット→  
(独立行政法人スポーツ振興センター HP より)



# 安全管理の3つのポイント

**POINT 01**

## 状況に応じた安全対策

計画段階ではできるだけ多くの危険を考え、活動中も危険の発見・把握に努めながら、状況に応じて適切な安全対策を行うようにしましょう。



## 五感を使って危険を察知

事故やけがにつながりやすいのは、危険があると一目では気づきにくい危険や、見落としやすい隠れた危険です。想定外の事故やけがを起こさないように、活動中は五感をフルに活用し、隠れた危険を見落とさないようにしましょう。

**Taste**  
舌  
苦い・冷たい  
舌が痺れる

**Hear**  
落ちた音  
壊れる音  
異常音  
叫び声  
怒鳴り声  
泣き声

**Smell**  
臭い  
腐った匂い  
オイルの匂い  
雨の匂い

**Touch**  
肌  
熱さ・冷たさ  
へこみ・ゆらみ

**Watch**  
目



## 活動前のチェックリスト

- 活動場所で危ないところがないか、使用する用具に破損がないかなどを点検しましたか？
- 気象情報（天気、気温、湿度、風など）を確認しましたか？
- スタッフ間で情報共有（子どもの人数や特性、役割分担、配置、禁止事項、緊急時の対応など）はできていますか？
- 子どもたちは活動に適した服装をしていますか？  
また、持ち物も確認しましたか？
- トイレや水分補給を事前に済ませたか確認しましたか？
- 体の調子が悪い子どもや気分がすぐれない子ども、寝不足の子どもはいないか、活動前に確認しましたか？
- セーフティーク（安全指導）を行いましたか？

**POINT 02**

## 安全を確保できる体制づくり

一緒に指導するスタッフと、活動に伴う危険の情報を共有し、活動中の安全対策や事故が起きた時の対応を確認しておくなど、子どもの安全を確保できる体制を作るようにしましょう。



**POINT 03**

## 子どもへの安全指導

活動の心構えとして「自分の身の安全は自分で守る」ことを伝え、活動前には必ずセーフティークを行うようにするなど、子どもの安全意識の向上に努めるようにしましょう。

あせるとけがのもと！



階段では遊ばない！



## 安全に楽しむ第一歩 「あしあとのむき」

施設で楽しく過ごすには、子ども自身が安全を意識し、行動できるようになることが大切です。6つの行動と心構えを大切にしましょう。

- 廊下や部屋では**あるき**ましょう
- 活動中は**しゅうちゅう**しよう
- 時間がなくても**あせ**らない
- 階段・ベッドは**とびおり**ない
- 疲れた時は**むり**をしない
- 自由時間も**き**をつけよう

「あしあと(の)むき」を意識して、安全に楽しく活動するようにしましょう。



(調査・普及)

国立青少年教育振興機構教育事業部事業企画課

(データ処理)

国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター企画室

(分析・執筆)

青木 康太朗 国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター客員研究員  
國學院大學人間開発学部子ども支援学科教授

---

「国立青少年教育施設における傷病の概況（令和5年度調査）」報告書

令和7年3月

編集・発行／お問い合わせ先

独立行政法人国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

(施設に関すること) 教育事業部事業企画課研修支援係

電話番号 03-6407-7686 FAX 03-6407-7699

E-mail honbu-sien@niye.go.jp

(分析に関すること) 青少年教育研究センター

電話番号 03-6407-7613 FAX 03-6407-7619

E-mail kenkyu-soumu@niye.go.jp

---